

## 霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

<火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続>

新燃岳では、本日（31 日）02 時 43 分に小規模な噴火が発生し、噴煙が火口縁上 500m まで上がり、南西に流れました。噴火は 18 時現在も継続しています。本日実施した現地調査及び聞き取り調査では、降灰は新燃岳の南西方向に分布し、新燃岳から約 20km 離れた鹿児島県霧島市隼人町でも確認されました。

### 【防災上の警戒事項等】

新燃岳火口から概ね 3 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。これまでの噴火では、風に流されて直径 4 cm 程度の小さな噴石（火山れき）が新燃岳火口から 10km を超えて降りました。また、爆発的噴火<sup>1)</sup>に伴う大きな空振に注意が必要です。噴火警報等及び霧島山上空の風情報に注意してください。

降雨時には泥流や土石流に警戒が必要です。降雨に関する情報に注意してください。

## ○活動概況

### ・噴火及び降灰の状況（図 1、図 2、図 3）

本日（31 日）02 時 43 分に小規模な噴火が発生し、噴煙が火口縁上 500m まで上がり、南西に流れました。噴火は 18 時現在も継続しています。この噴火による大きな噴石の飛散や火砕流の発生は確認されませんでした。噴火の発生は 8 月 6 日以来です。

本日実施した現地調査及び聞き取り調査では、降灰は新燃岳の南西方向に分布し、新燃岳から約 20km 離れた鹿児島県霧島市隼人町でも確認されました。

### ・地殻変動及び地震・微動の発生状況（図 4）

傾斜計では、噴火発生とともに新燃岳のわずかな沈降を示す変化が認められました。

噴火に伴い火山性微動が継続しています。火山性地震は、噴火発生後 1 時間あたり 10～40 回と増加し、日回数は 15 時現在までに 300 回を超えています。

1) 爆発地震を伴い、空振計で一定基準以上の空振を観測した場合に爆発的噴火としています。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000(行政界・海岸線)』を使用しています(承認番号 平 20 業使、第 385 号)。



図 1 霧島山（新燃岳） 本日 02 時 43 分に発生した噴火の様子  
（鹿児島県始良・伊佐地域振興局の監視カメラによる）  
噴煙は火口縁上 500m まで上がり、南西に流れました。

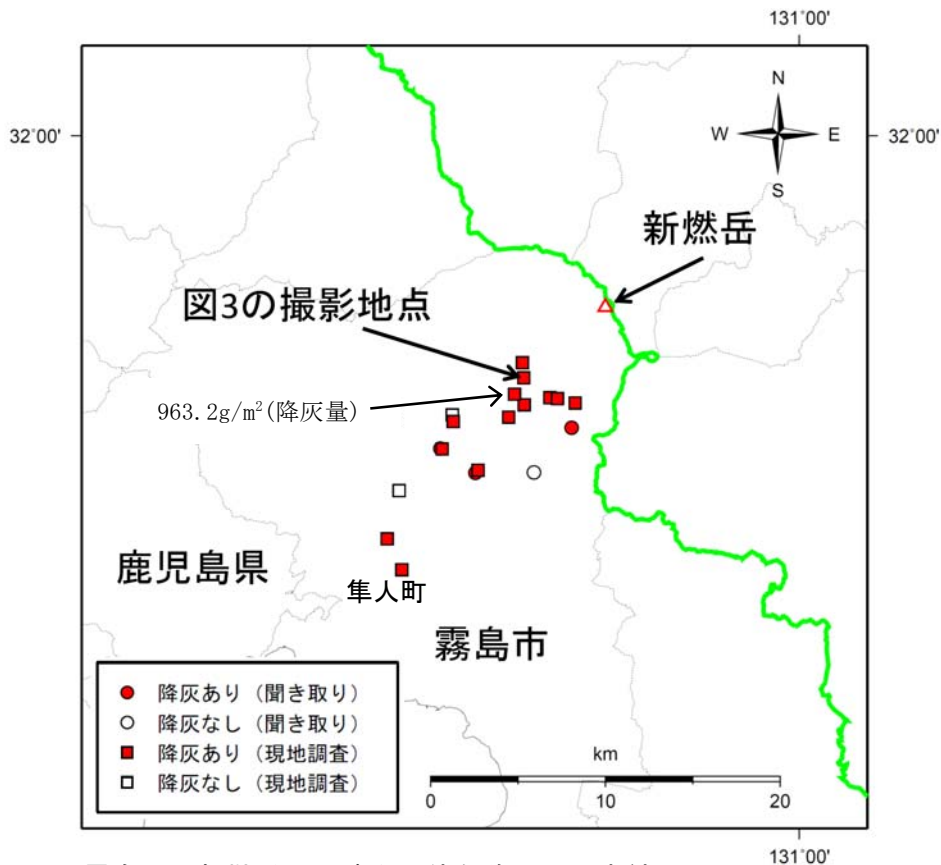


図 2 霧島山（新燃岳） 噴火に伴う降灰の調査結果  
本日実施した現地調査及び聞き取り調査では、降灰は新燃岳の南西方向に分布し、新燃岳から約 20km 離れた鹿児島県霧島市隼人町でも確認されました。



図 3 霧島山（新燃岳） 噴火に伴う降灰の状況（図 2 参照）

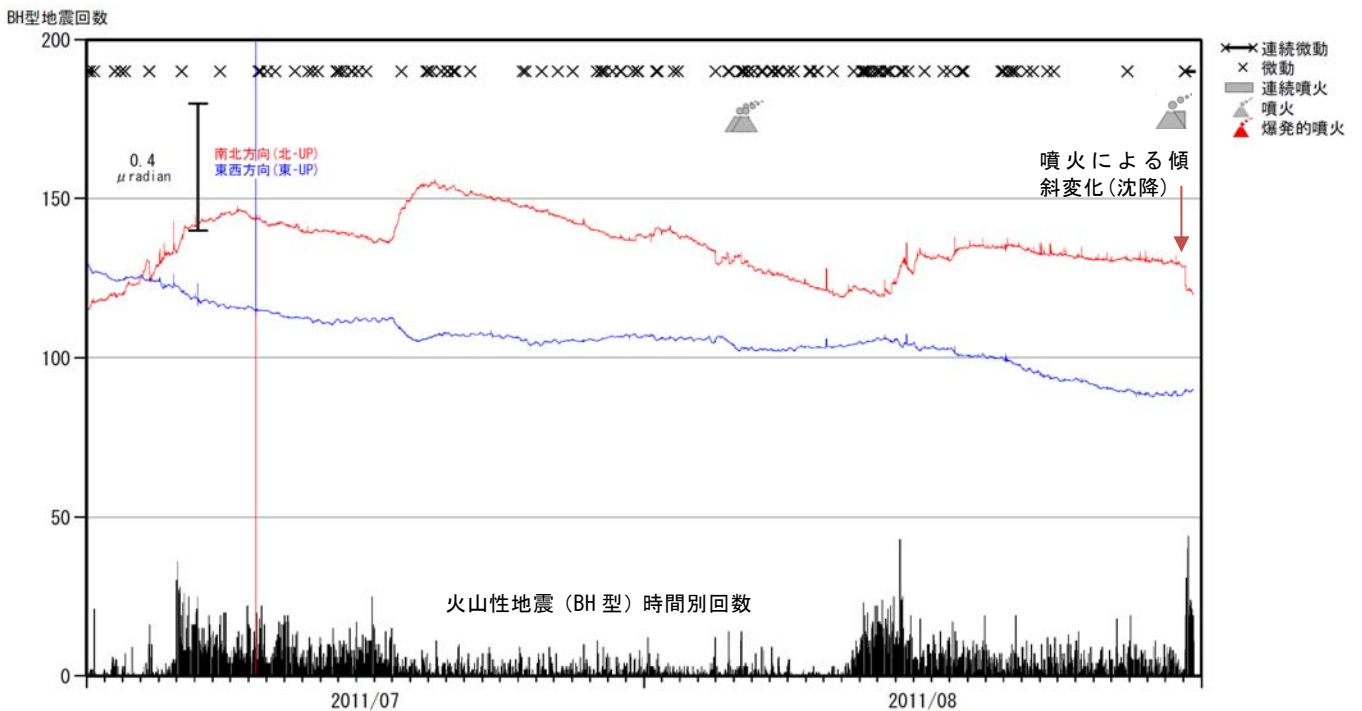


図 4 霧島山（新燃岳） BH 型地震<sup>2)</sup>の時間別回数と高千穂河原傾斜計の変化  
(2011 年 7 月 1 日～8 月 31 日 15 時 00 分)

- ・ 噴火発生とともに新燃岳のわずかな沈降を示す変化が認められました。
- ・ 火山性地震は、噴火発生後 1 時間あたり 10～40 回と増加しました。

2) 火山性地震のうち、火口直下の比較的浅い場所で発生し、周期の長い地震を B 型地震と呼びます。B 型地震は、マグマの通り道（火道）の中で、マグマやガスが移動したり、マグマが発泡したりすることで発生すると推定されています。B 型地震のうち、比較的周期が短いものを BH 型、長いものを BL 型と分類しています。